

IGCJ 7
2015年6月5日



IGCJでの意見集約について

「IGCJを考える会」メンバー
堀田 博文

IGCJの目的と活動(1/2)

<http://igcj.jp/about.html> より

- 目的

- インターネットガバナンスに関して、適切な状況認識の上で充実した検討ができる基盤を日本国内に構築する。
- インターネットガバナンスに関する提言を行い、グローバルな方向性への反映と日本国内での実装を準備する。

IGCJの目的と活動(2/2)

<http://igcj.jp/about.html> より

• 活動

1. メールングリストによる相互の情報交換と議論
2. ミーティング開催による相互の情報交換と議論
3. 国内外の関連イベント等での**意見発信**
4. パブリックコメント募集に応じた**意見提起**
5. 国際的検討主体や日本政府との**意見調整**
6. その他、この会議の目的を達成するために必要な活動

• 参加者

- 上記趣旨に賛同する方は、誰でも自由に参加可能

IGCJとしての意見集約(1/3)

- IGCJ開始時に設定した「意見発信に向けた考え方」
 - 当初、IGCJとして意見を集約することは狙わず、情報交換・意見交換の機会提供とアウトリーチに注力する
 - 将来的には、意見集約・発信の方法を考える

- 意見集約に向けたIGCJ構造
 - 参加者層の定義 (2014年11月20日開催の第4回IGCJでの案)
 - プロ: 関連団体役員などで、国際会議に参画する
 - コーカス(caucus): 責任を持った発言を行い、議論に参加
 - オーディエンス(audience): IG諸課題や会合のトピックに関心を持ち、発表や議論を聞きに来る

- 意見集約に向けたIGCJ構造(続き)
 - 構造的にはコーカスがIGCJの意見を集約し文書化するのが適当と考えられるが、以下の理由により実現は困難
 - IGCJは自由参加
 - IGCJ参加者により個々のテーマへの理解度、意見が大きく異なる
 - 分野/テーマによらずIGCJ参加者の信託を得たコーカスを構成するのは困難

IGCJを場として使った意見集約案

- IGCJとしての意見集約は困難という背景
- ↓
- 日本からの意見発信を行うとき、IGCJをプラットフォームとして使う方法の案「賛同者募集モデル」

